F2-14

アイレベルとグランドレベルの比較・整理

Study on Comparison and examination between The Eye level and The Ground level

○前田瑞季[1]，　漆間千咲[1]，泉山塁威[2]，宇於﨑勝也 [2]
Mizuki Maeda, Chisa Uruma, Rui Izumiyama, Katsuya Uozaki

Abstract: In recent years, the perspectives of "eye level" and "ground level," which indicate the height of a person's line of sight when standing, have become one of the elements of urban planning. In this study, the relationship between eye level and ground level will be organized for areas that want to promote walkable urban development in the future. As a result, the range of eye level and ground level is almost the same. However, it was found that the eye level includes the interior of the interior space, while the ground level includes automobiles.

１－１. 研究の背景及び目的

国土交通省は2020年９月に施行された改正都市再生特別措置法の中で，「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し，WEDO(Walkable/Eyelevel/Diversity/Open)というウォーカブル政策の方向性を打ち出した[1)]．さらに2021年６月には，国土交通省がグランドレベルの事例集である「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」を公表した[2)]．このように「アイレベル」や「グランドレベル」という視点がウォーカブル政策における重要な要素となっている．

しかし，前述のWEDOでは「アイレベル」，事例集では「グランドレベル」という単語が用いられており，この２つの単語の違いについては明確に定義されておらず，今後ウォーカブル税制支援やウォーカブル助成を受ける予定の自治体らは理解しづらく，２つの単語の違いについて明確にする必要があると考えられる．

そこで，本稿では既存の文献をもとに，アイレベルとグランドレベルの共通点，差異点を明らかにする．

１－２. 研究方法[Table １ ～ ２]

本研究では，グランドレベル，アイレベルが記載された文献①グランドレベル事例集，②千代田区行政用語解説，⑤福田の紀要，⑥ヤンゲール「人間の街」，⑦Hans Karssenberg「The city at eye level and place-led development」として，検索エンジンを用いて「アイレベル」「グランドレベル」「目線の高さ」「低層階」「景観デザイン」「街路景観」を検索キーワードに，**Table 1** にアイレベルとグランドレベルの定義，目的，範囲を示した．**Table 2** には，具体的な項目ごとに範囲として含むものを文献①グランドレベル事例集，②千代田区行政用語解説，③まちなかウォーカブル推進事業，④高木らの学術論文，⑤福田の紀要，⑥ヤンゲール「人間の街」，⑦Hans Karssenberg「The city at eye level and place-led development」の記載内容をもとに整理した．

分類項目としては建築内部の項目を文献⑤福田[6)]の研究を参考に，その他の項目は文献①「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」[2)]を参考とした．

さらに **Table 1** をもとに **Fig. 1** に「アイレベル」「グランドレベル」の範囲をそれぞれ図に示した．

２. アイレベルとグランドレベルの比較

アイレベルとグランドレベルの具体的な項目を示したTable 1より，

文献①「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」[2)]では，グランドレベルは「街路，公園，広場，民間空地，沿道建物の低層部等，まちなかにおいて歩行者の目線に入る範囲」を指し，アイレベルは「街に開かれた１階」と示されている．アイレベル，グランドレベルの共通点，差異点を示したTable 2では，文献②千代田区の用語解説[3)]において，両者共に「地上を歩く人の目線の高さ，建物の低層部分（１階，２階や地下階等）や建物周囲の空地，歩道」と示されている．文献④高木ら[5)]は，「アイレベルは低層部や建築物前面，敷地内の活用」と示している．文献⑤福田[6)]は，「人間が利用居住できる景観をデザインするためには、近景や近接景、接景のデザインがなされなければならない．アイレベルの視覚の範囲を基準とした時，接景，近接景，近景，中景である」と示し，例として，「ベンチ，植栽，舗装，階段，インテリア，建築物，道路」が挙げられている．また，文献にもとづく共通点は,アイレベルとグランドレベルの範囲が挙げられる．**Table 2**より両者の範囲が大通りの１階，建物の低層部分（１階、２階や地下階等）や建物周囲の空地，歩道と同じであることが明らかになった．

差異点は，アイレベルに自動車が含まれないこと，インテリアもアイレベルの範疇であることが挙げられる．ア

１：日大理工・学部・建築　２：日大理工・教員・建築

イレベルとグランドレベルの共通点，差異点をまとめた **Table 3** より，アイレベルは自動車が含まれないこと，文献⑥人間の街[7]ではアイレベルは歩行者中心のスケールであり，自動車は含まれておらず，文献①居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン[2]では，グランドレベルは「街路，公園，広場，民間空地，沿道建物の低層部等，まちなかにおいて歩行者の目線に入る範囲」を指し，図示でも自動車が含まれている．また，アイレベルは，文献⑤福田による研究[6]から近接景であるインテリアもアイレベルの基準であること，文献⑥ヤンゲールの「人間の街」[7]は，建物と街の交流ゾーンであり，内外のアクティビティが出会う場所であると示され，内部空間のインテリアまでを含むことが明らかとなった．

Table 1　アイレベルとグランドレベルの定義、目的、範囲

	文献	アイレベル	ページ数	グランドレベル	ページ数
定義	①	街に開かれた1階	p. 5	建物低層部、オープンスペース、街路等を包含した空間	p. 6
	②	地上を歩くひとの目線の高さ	p. 3	地上を歩くひとの目線の高さ	p. 3
	⑥	視覚の範囲	p. 101		
	⑦	目の高さの街	p. 246		
	⑧	目線の高さ	p. 26	メインストリートの地上階	p. 26
目的	①				
	②	ひと中心の歩きやすい空間づくり	p. 3	ひと中心の歩きやすい空間づくり	p. 3
	⑥				
	⑦	歩行者が道すがらいろいろな体験を楽しむ都市空間の質の維持、発展	p. 248		
	⑧	活動量測定		活動量測定	
範囲	①	歩行者目線等の1階部分	p. 5	歩行者の目線に入る範囲 官民の領域は一体的に認識	p. 6
	②	建物の低層部分（1階、2階や地下等）や建物周囲の空地、歩道	p. 3	建物の低層部分（1階、2階や地下等）や建物周囲の空地、歩道	p. 3
	⑥	ベンチ、植栽、建築物、町並みデザイン	p. 100		
	⑦	建物と街の交流ゾーン 内外のアクティビティが出会う場所	p. 248		
	⑧	大通りの1階	p. 26	大通りの1階	p. 26

※文献 ①[2]居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン ②[3]千代田区 用語解説 ⑥[6]景観デザインにおけるスケールとそれらの領域 ⑦[7]ヤンゲール「人間の街」より ⑧[8]Hans Karssenberg The city at eye level and place-led development

Table 2　アイレベルとグランドレベルの共通点・差異点

		アイレベル							グランドレベル						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
空間構成要素	ベンチ					●	●		●						
	植栽					●	●		●						
	看板					●	●		●						
	舗装					●	●		●						
	照明					●	●		●						
活動	人						●	●	●						●
	イベント						●		●						
	自転車						●		●						
	自動車								●						
建物側面	ファサード ディスプレイ					●	●	●	●						●
	沿道建物の低層部		●	●	●	●	●		●	●					
建物内部	建物内部						●		●						
	インテリア					●	●								
街路、道路						●	●		●						
民間空地			●	●		●	●		●	●					
広場						●	●		●						
公園						●	●		●						
歩道			●				●			●					

※文献 ①[2]居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン ②[3]千代田区 用語解説 ③[4]まちなかウォーカブル推進事業 ④[5]エリアマネジメント団体による景観マネジメントの現状とその団体類型ごとの特徴に関する研究 ⑤[6]景観デザインにおけるスケールとそれらの領域 ⑥[7]ヤンゲール「人間の街」より ⑦[8]Hans Karssenberg The city at eye level and place-led development

Table 3　アイレベルとグランドレベルの共通点・差異点まとめ

項目	アイレベル、グランドレベル
共通点	空間構成要素：ベンチ，植栽，看板，舗装，照明 活動：人，イベント，自転車 建物側面：ファサード，ディスプレイ，沿道建物低層部 建物内部, 街路，民間空地，広場，公園，歩道 範囲：歩行者目線，大通りの1階
差異点	活動：自動車 建物内部：インテリア

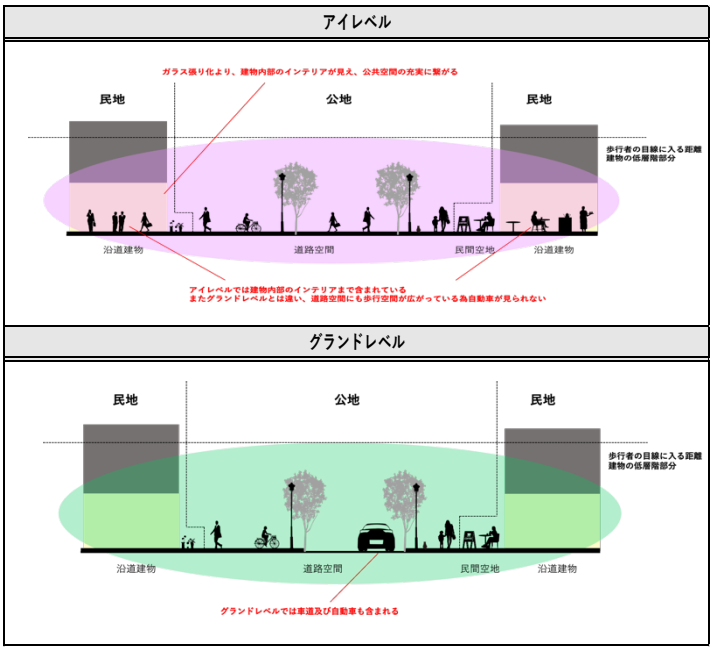

Fig. 1　アイレベルとグランドレベル

3. まとめ

本研究では，アイレベルとグランドレベルの２つの単語の違いを明確にするため，文献調査を行った．結果，共通点は，アイレベルとグランドレベルの範囲が挙げられ，差異点は，アイレベルは歩行者中心のスケールであり，自動車は含まれておらずグランドレベルは「街路，公園，広場，民間空地，沿道建物の低層部等，まちなかにおいて歩行者の目線に入る範囲」を指し，図示でも自動車が含まれていること，また，グランドレベルは官民の領域が一体的に認識される為，範囲は両者同じだが，アイレベルは，近接景であるインテリアもアイレベルの基準であり，内外のアクティビティが出会う場所であると示され，インテリアも含むことが明らかとなった．（**Fig. 1**）

参考文献

1）国土交通省ウォーカブルなまちづくり
https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001326427.pdf（最終閲覧日2021年9月17日）

2）国土交通省都市局まちづくり推進課「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン-事例から学ぶその要素とポイント-」
https://www.mlit.go.jp/toshi/file/useful/居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン冊子.pdf（最終閲覧日 2021 年 9 月 17 日）

3）千代田区用語解説
https://www.city.chiyoda.lg.jp/documents/26819/06yogokaisetsu.pdf（最終閲覧日2021年9月17日）

4）国土交通省　まちなかウォーカブル推進事業
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_gairo_tk_000092.html（最終閲覧日 2021 年 9 月 17 日）

5）高木悠里，嘉名光市，蕭閔偉（2020）「エリアマネジメント団体による景観マネジメントの現状とその団体類型ごとの特徴に関する研究エリアマネジメント団体への全国アンケート調査・分析に基づいて」日本都市計画学会都市計画論文集 55 巻 3 号 pp. 1423-1430

6）福田肅（2003）「景観デザインにおけるスケールとそれらの領域」芸術 ： 大阪芸術大学紀要 / 大阪芸術大学芸術研究所運営委員会 編 26 号 pp. 93-105

7）ヤン・ゲール「人間の街：公共空間のデザイン」pp. 246-249 鹿島出版会 2014 年 3 月

8）Hans Karssenberg（2020）「The city at eye level and place-led development」
https://assets.website-files.com/5c0010fddaf9c9546f8172b9/5cbf62a4baebd3669c388e0f_Hans%20Karssenberg%20-%20The%20City%20at%20Eye%20Level%20and%20Place-Led%20Development.pdf（最終閲覧日 2021 年 9 月 18 日）